



2023年 7月13日
第4号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横浜地本第28回定期大会 (要旨) ③



梶田書記長総括答弁(要旨)

17名の代議員の発言を受け私は、先月、青年部主催で開催された「かんなり部会組合員との意見交換会」を思い出しました。皆さん

の発言と共通するのは、「人間とは何であり、どういう生き方をするか」本日の発言のすべてが、人間味のない「経済的合理性」に立ち向かう発言だったと感じました。

23春闘では、要求根拠を明確にし、ベアと定界を明確にした職場からのたたかいによって、「慎重論」や社友会・JR連合の「低額相場づくり」を打ち破ってきました。

夏季手当のたたかいでは、会社に幻想を持たず「騙されない」「諦めない」たたかいをつくり出してきました。代議員から再申し入れ

について「要求を粘り強く訴え、納得のある回答を求めて期限ギリギリまでたたかってくる。やり続けることが重要。諦めたら終わり」と、その意義についても語られました。再申し入れは、要求が実現するかしないかもありませんが、諦めず声を出し続けることで、そのたたかいを通じ、組合員や未加入者に会社の横暴さを暴露し、組織化することにあります。

その力が要求実現につながります。多くの代議員から「融合と連携」という柔軟な働き方によって、要員が削られ、安全レベルもサービレベルも低下し、働きがいも喪失しているといった現状が訴えられました。豊田運輸区で顕著に現れています。シヨブローテーションに名を借りて、本人のキャリアプランや特性も把握することなく、要員穴埋めの人事異動が横行しています。こうした横暴によって、心身を病む社員が後を絶ちません。したがって、施策の検証運動を強化し、具体的な要求や提言づくりを強化していきます。

国府津運輸区や宇都宮運輸区で懲罰的日勤教育が行われ、当該組合員が病欠や医療保護入院まで追い込まれました。私たちは、会社

はなぜ懲罰的な日勤教育を行うのか？考えなくてはなりません。

「人間はミスをするもの。だからマニュアルなどのソフト面や機械などのハード面、それから作業環境や、周りの人間、管理体制などを立てなければならぬ」とするのがヒューマンファクターの考え方です。しかし、会社は事故を起こした人だけに問題を切り縮めます。それはなぜか？事故を起こした人間以外を問題にすると、必ず会社の側にも少なからず責任が生ずるからです。つまり自己保身から、事故を起こした当事者のみを問題にし、「基本動作ができないのは社人として問題だからだ」「人間としてダメな人間なんだ」と人格破壊の懲罰的な教育に転嫁されていくのです。

一方で、私たちの側はどうなのか？ということ掘り下げなければなりません。

代議員からも「会社に絶対幻想を持たない」「ことをたたかいから学んだ」と語られていました。私自身も冷徹な「資本の論理」「経済的合理性」に流されてしまふ、騙されてしまふ弱さを同時に持っているのだとたたかいを通じて学ぶことができました。

ですから、安全哲学の再確立と言った場合、会社の自己保身のたたかいであり、自分自身の自己保身のたたかいでもあるということ。自分だったら、絶対に同種事故を起こさないのか？」を議論してください。人間である以上、絶対はありません。本人の問題に切り縮めたり、事故の評価にとどめたり、わかたたりをせず、自分事として捉え、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を職場の隅々まで浸透させていきましょう。

これほどまでに「人間」について強調された大会はありません。それだけ、この会社が人間性を失っており、そのことを皆さんが実感している証左だと感じました。松崎初代委員長長の講演録でもある『職場からの挑戦』にこのように載っています。「やはり科学として

の経済学を基礎的に身につけておかないと、いつだって調子よく騙されてしまふわけでしょう。会社人間で、過労死するまで働かされて、仕事がなくなったらクビ。(中略)そこに人間性がありますか。人間の温もりがありますか。私はヒューマンズムこそがすべての原点と思っています。ヒューマンズムとは単純なことです。『我も人間、彼も人間』、そういうことだと思ふのです。そしてその人間を悲しませる人とたたかう。それがヒューマンズムだと思ふます。たたかわないところにヒューマンズムはないのですよ。」と。代議員から「私はYさんと共に闘います」「今の会社の傲慢姿勢を正すため尽力する」と力強く発言がありました。まさに「抵抗とヒューマンズム」です。

「会社は社員を要員の穴埋め、コマとしか見ていない」と緊急代表者会議や本日の大会でも発言がありました。まさに、経済的合理性をもって労働者を使い捨てにする。ミスをしたり、病気をした労働者には辞めるか死ぬかしてもらい取り替える。そうした論理です。ですから、どこでも起こり得ることです。自分は大丈夫ではなく、隣の仲間が助けを求めている、そうしたらシンプルに、単純にその人間を悲しませている人とたたかうのではありませんか。

最後に、「新たな戦前」になります。憲法の改悪も目の前まで迫っています。法律の話をしました。が、為政者、権力を縛る憲法とは何か？それを変えようとする権力とは何か？を学ぶためにも、継続して9条連帯ユーアの購読拡大を進め、改憲にノーを投じる仲間を拡大していきます。

会社施策による組織の再編もありますが、組織強化・拡大のため、自らが一歩前へ出て、共にたたかう仲間と組織をつくり出すことが問われています。ここにいるリーダーの皆さんが、安住の地に身を置くのではなく、一歩前へ出て厳しい現実を突破していかうではありませんか。

の経済学を基礎的に身につけておかないと、いつだって調子よく騙されてしまふわけでしょう。会社人間で、過労死するまで働かされて、仕事

の経済学を基礎的に身につけておかないと、いつだって調子よく騙されてしまふわけでしょう。会社人間で、過労死するまで働かされて、仕事

騙されず、諦めず、一歩前へ出てJR東労組に結集しよう!